

がん年報 2022年

独立行政法人 国立病院機構
大分医療センター



Oita Medical Center

基本理念

「愛の心・手」で
病める人々に寄りそう医療

巻 頭 言

大分医療センター
院長 奈須 伸吉



大分医療センターの2022年がん年報が完成いたしましたので、皆様にお届けいたします。

まず、院内がん登録の件数は、2020年以降は増加傾向にあり、2022年はコロナパンデミック前の2019年の件数とほぼ同じに回復しています。また、放射線療法件数はほぼ横ばいで、化学療法件数は増加しています。

臓器別では、消化管では、大腸癌の件数が大幅に増え、大腸癌の腹腔鏡手術と化学療法件数が増加傾向にあります。しかし、消化管の内視鏡治療や胃癌の手術件数は以前ほど多くはありません。

肝臓癌の件数も徐々に減少しています。逆に肺癌は、増加傾向にあり、気管支鏡検査と化学療法件数は増加しており、化学療法件数が大幅に増加しています。そして、前立腺癌は生検件数、診断件数、治療件数共に、徐々にコロナパンデミック前の数字に戻りつつあります。

今後、新型コロナウイルスパンデミックが真の終息に向かうにつれて、がん診療の重要度がさらに大きくなっていくと思われます。当院は、地域がん連携協力病院として、これからも地域医療を支えていきますので、どうぞよろしく願いいたします。

令和6年3月

目次

1. 2022 年がん治療実績	
(主要5大がん + 前立腺がんの治療 (2022 年 1 月～ 12 月実績))	
胃がん治療	1
大腸がん治療	2
肝がん治療	3
肺がん治療	4
乳がん治療	5
前立腺がん治療	6
2. 院内がん登録 2022 年症例報告	
①院内がん登録 登録件数	7
②部位別件数	8
③年齢階層別件数	8
④性別件数	9
⑤主要 5 部位 + 前立腺 治療前ステージ別件数	9
3. 部門別活動報告	
①放射線治療部門	10
②化学療法センター	12
③がん化学療法薬剤部	13
④緩和ケアチーム活動	14
⑤がん患者リハビリテーション	16
⑥がん相談支援センター、がんサロン、がん川柳	17
4. 当院で治療を行っているがんの種類	18
5. がん関連資格取得者 (2022 年 12 月現在)	19
6. がん関連発表	22

1

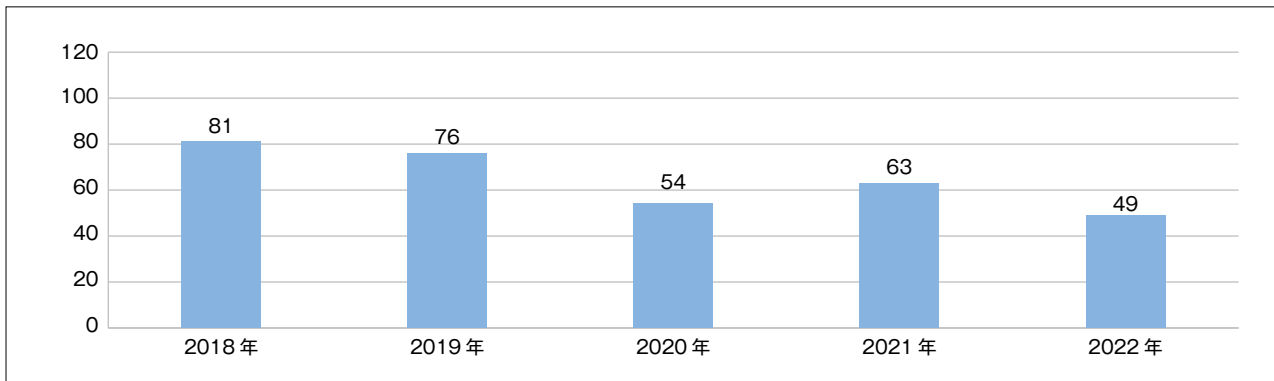
2022年がん治療実績

(主要5大がん + 前立腺がんの治療 (2022年1月~12月実績))

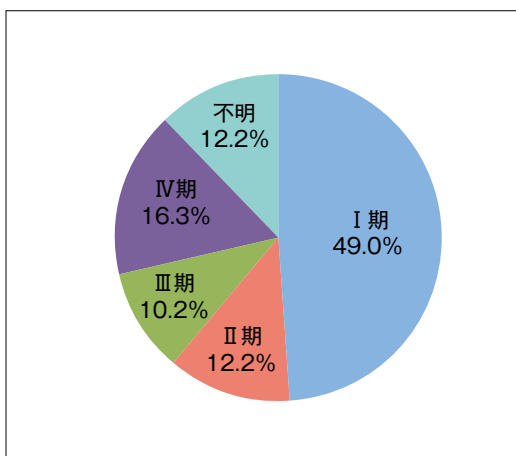


胃がん治療

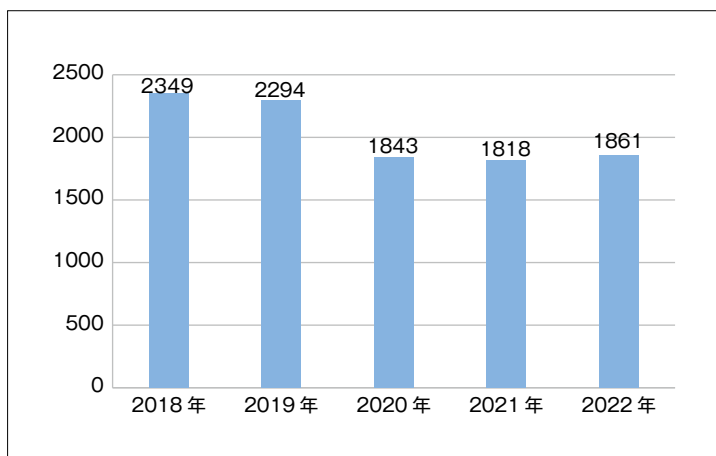
① 初回診断・治療件数



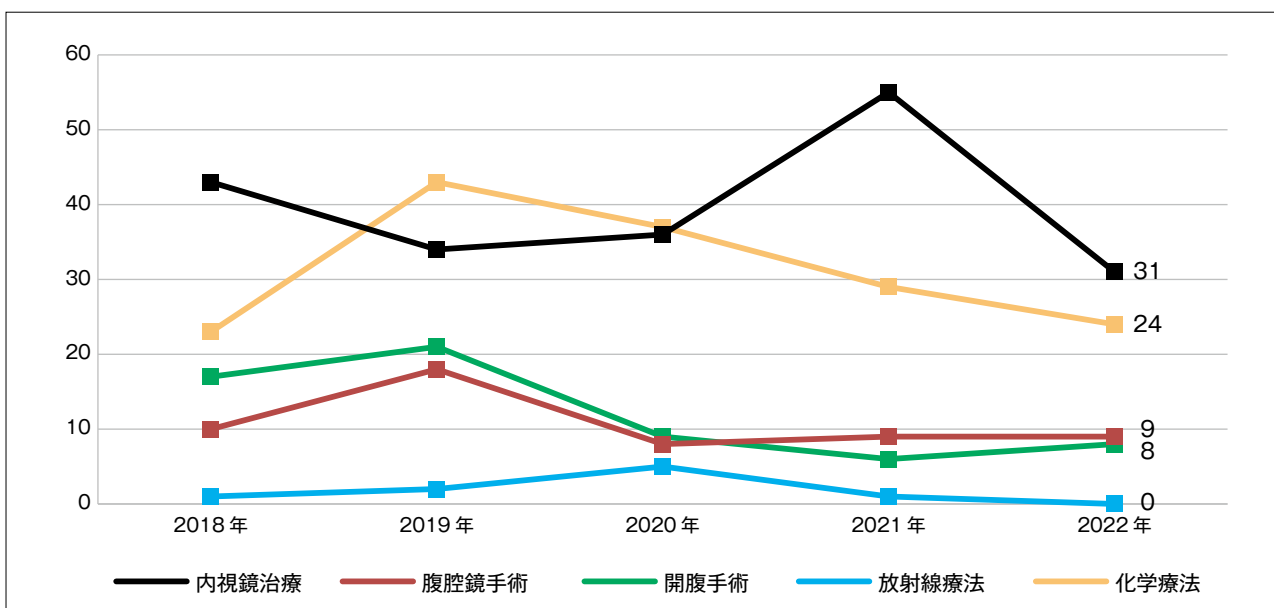
② 2022年症例治療前ステージ別割合



③ 胃内視鏡検査件数

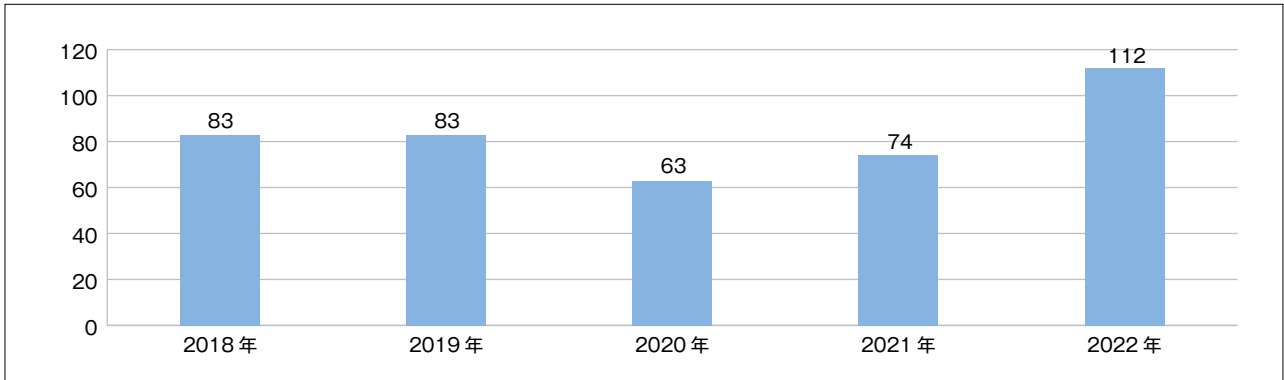


④ 治療件数 (重複含む)

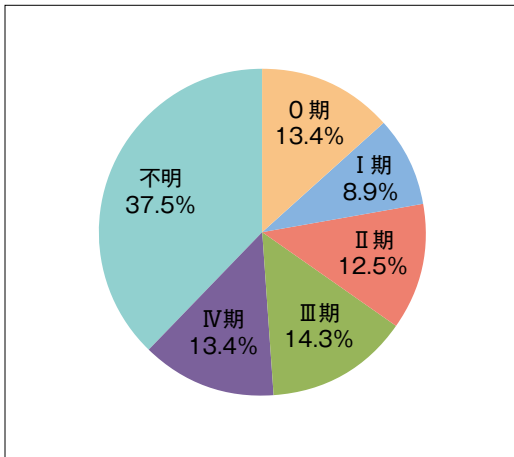


大腸がん治療

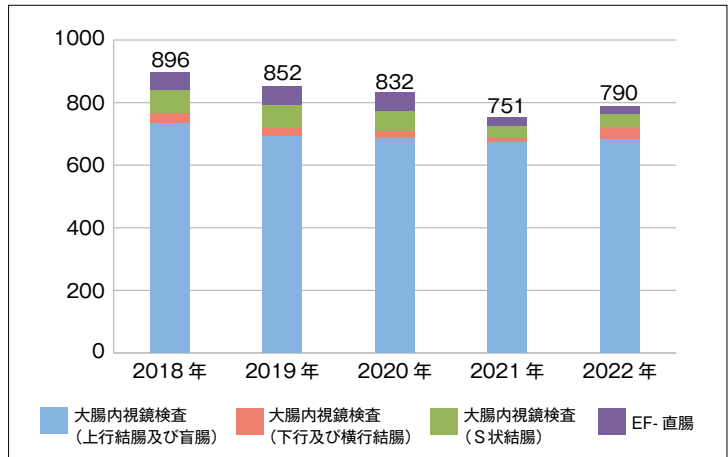
① 初回診断・治療件数



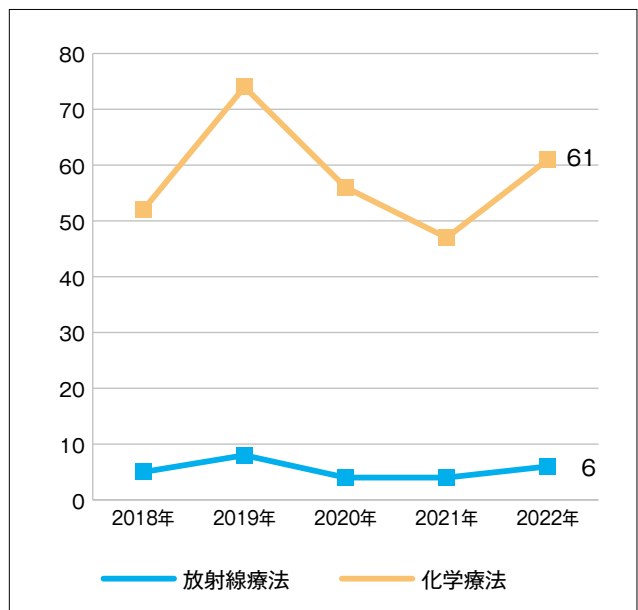
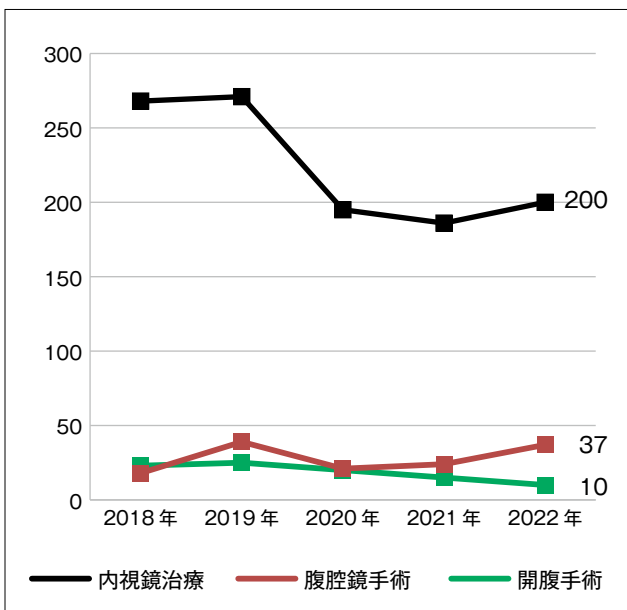
② 2022年症例治療前ステージ別割合



③ 大腸内視鏡検査件数

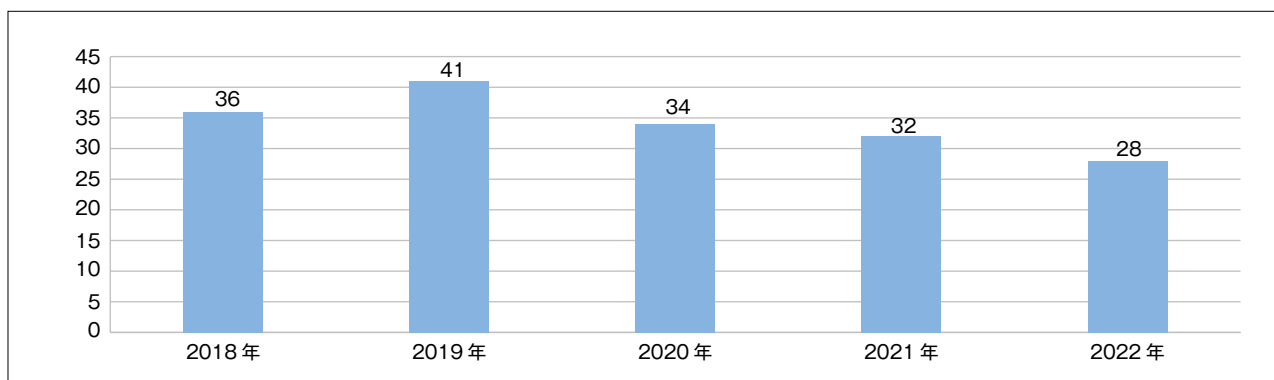


④ 治療件数 (重複含む)

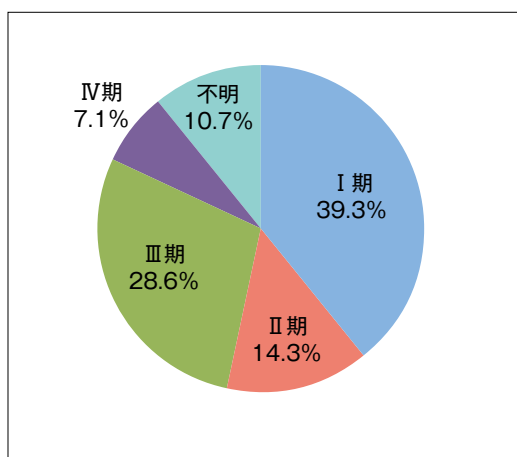


肝臓がん治療

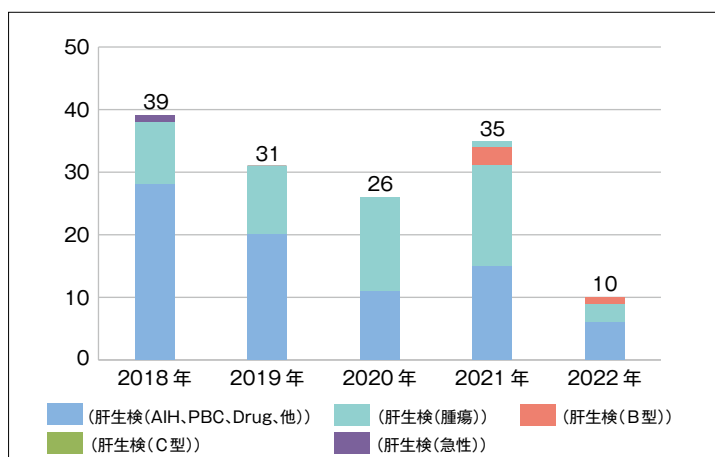
① 初回診断・治療件数



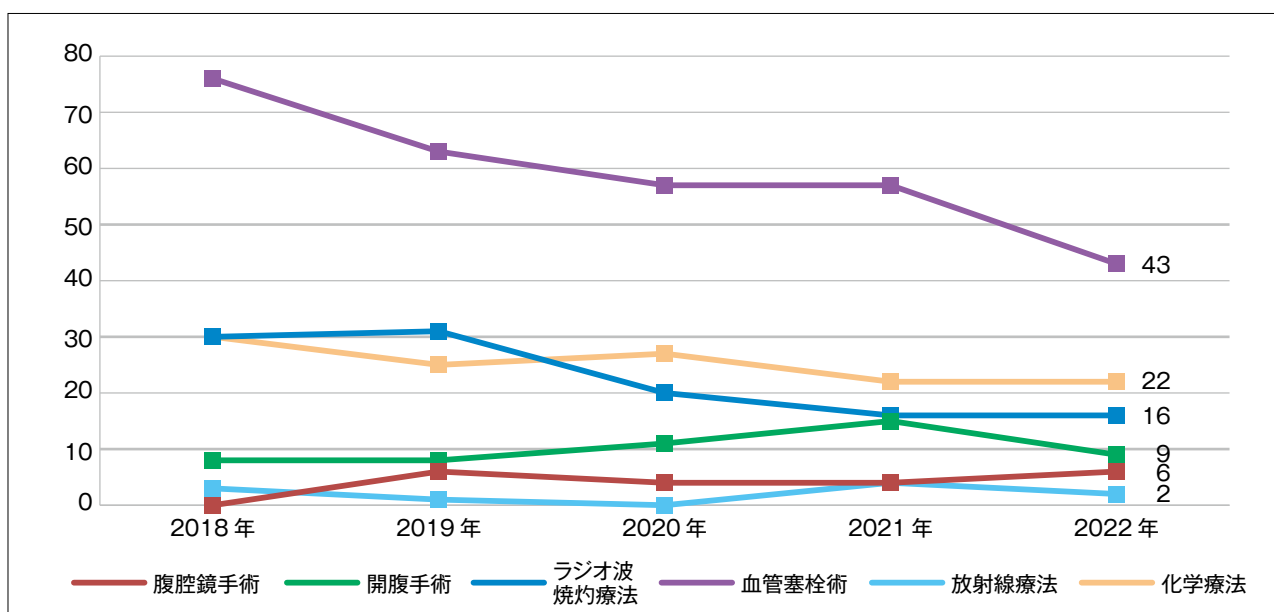
② 2022年症例治療前ステージ別割合



③ 肝生検件数

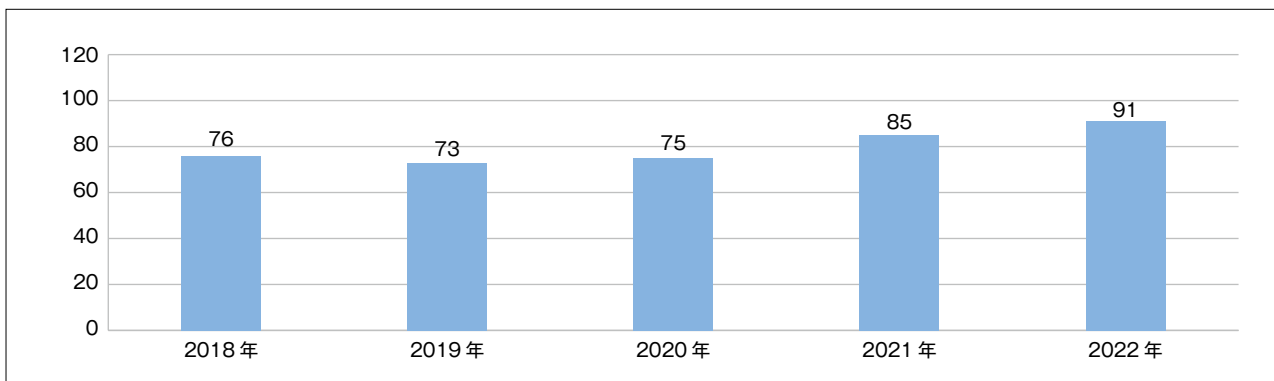


④ 治療件数 (重複含む)

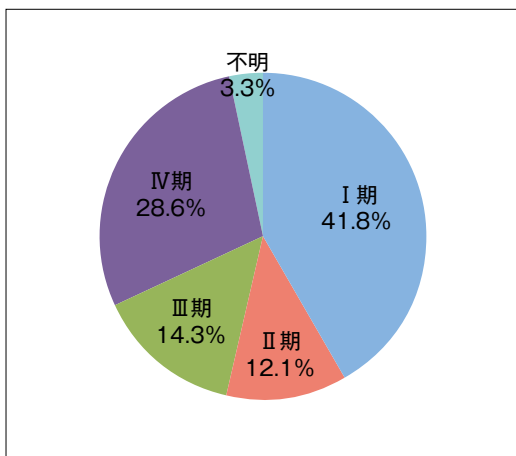


肺がん治療

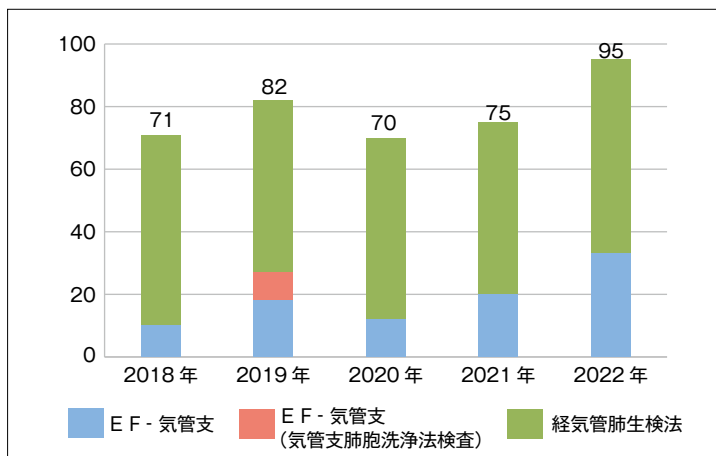
① 初回診断・治療件数



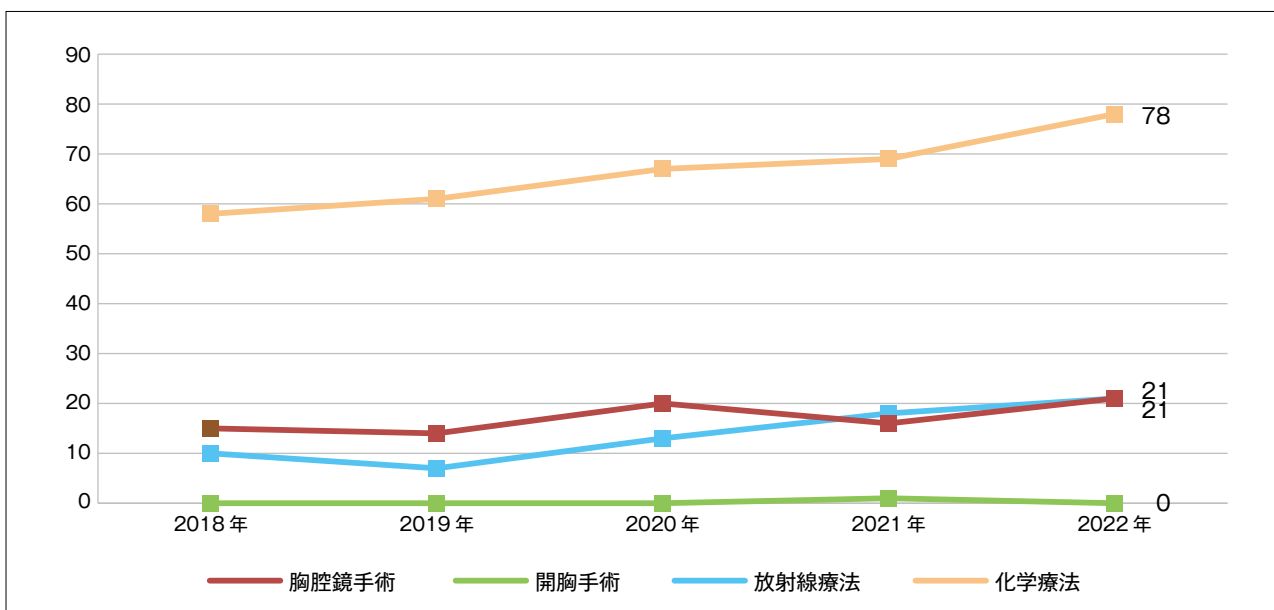
② 2022年症例治療前ステージ別割合



③ 気管支鏡検査・肺生検件数

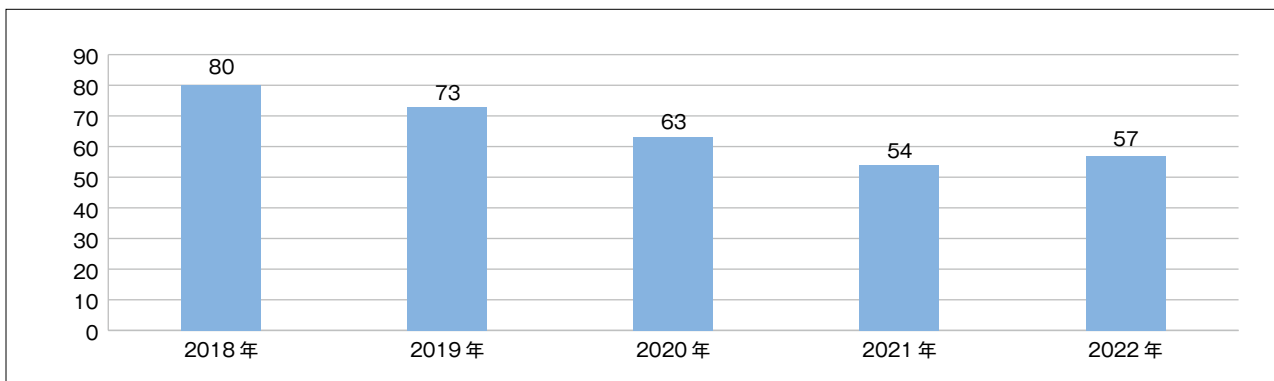


④ 治療件数 (重複含む)

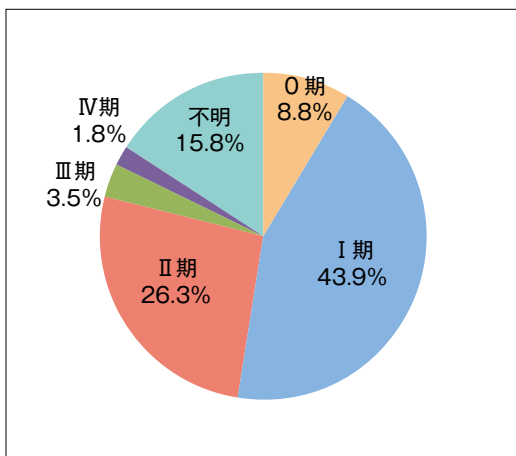


乳がん治療

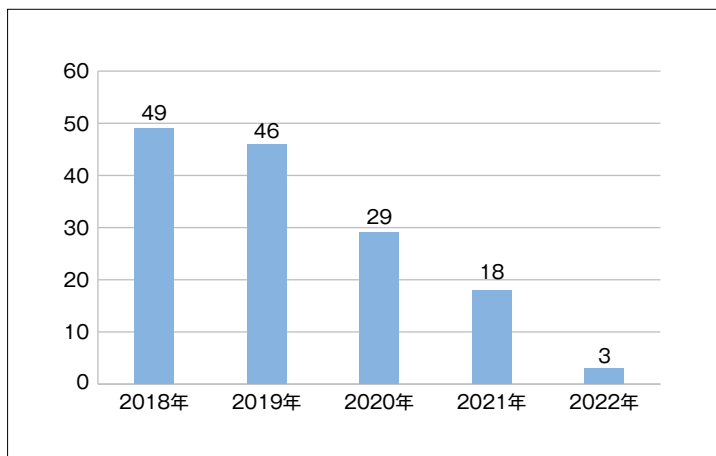
① 初回診断・治療件数



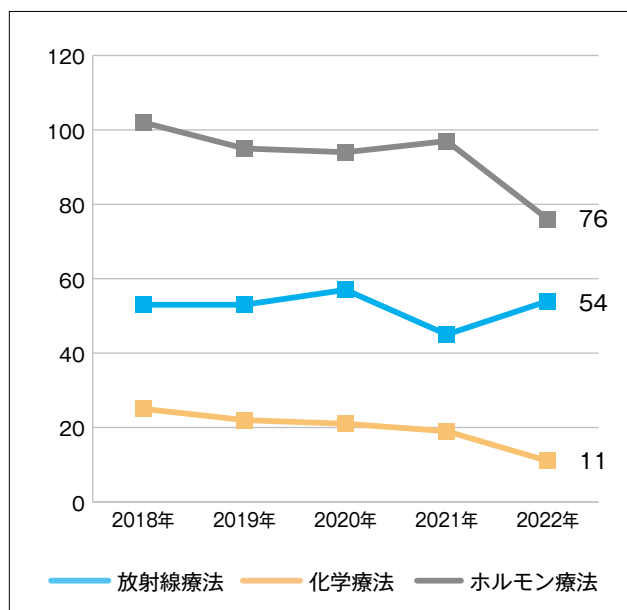
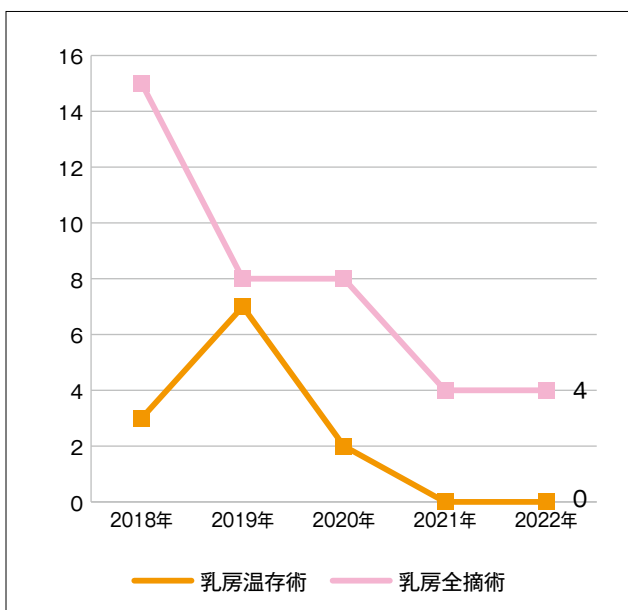
② 2022年症例治療前ステージ別割合



③ 乳腺穿刺又は針生検件数

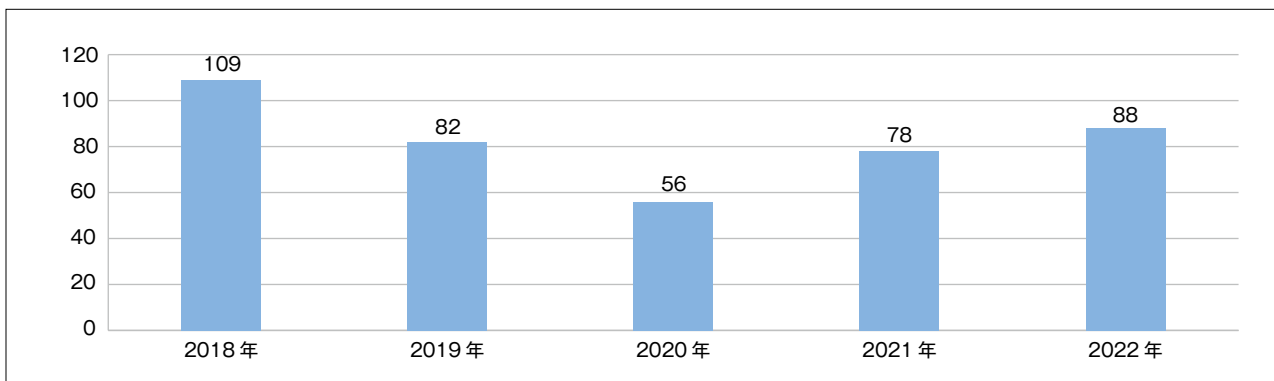


④ 治療件数（重複含む）

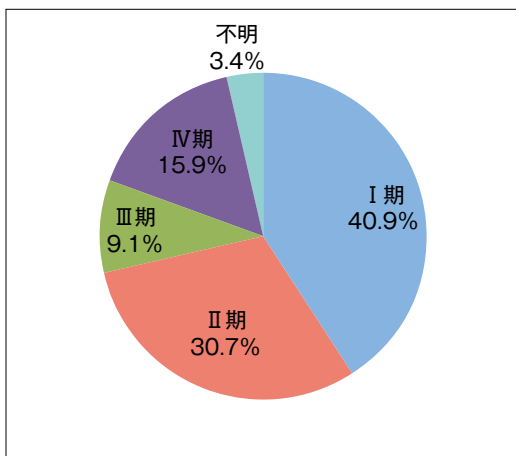


前立腺がん治療

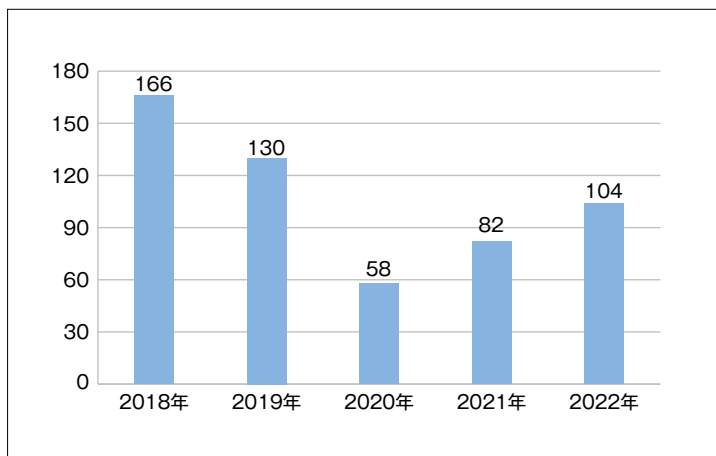
① 初回診断・治療件数



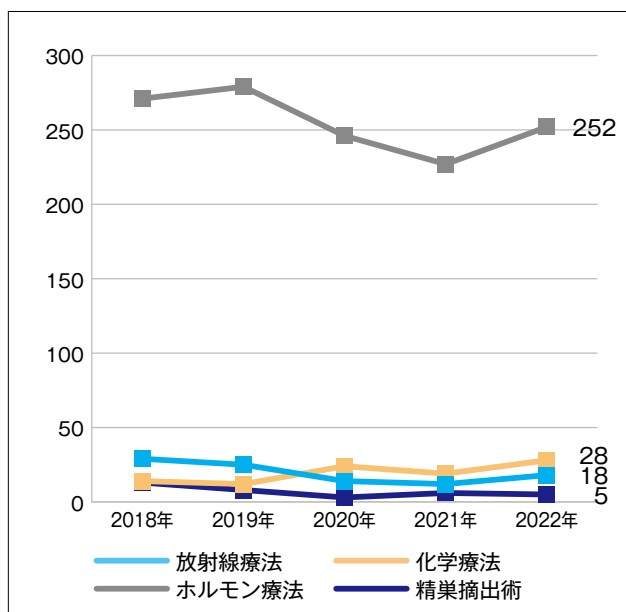
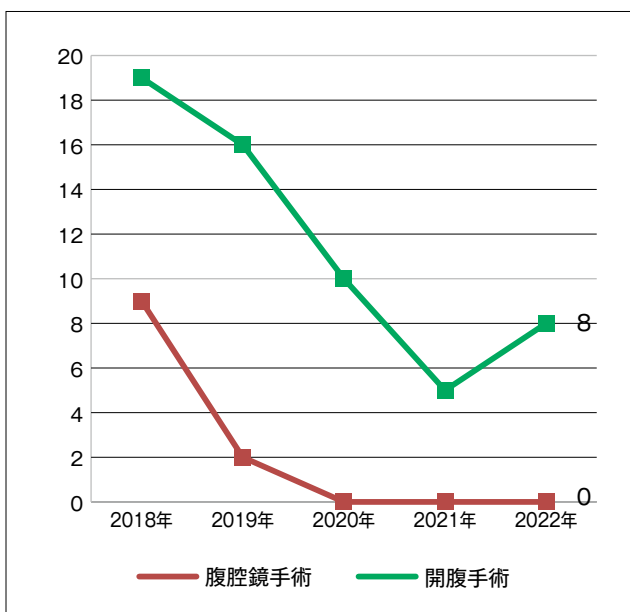
② 2022年症例治療前ステージ別割合



③ 前立腺生検件数



④ 治療件数（重複含む）



2

院内がん登録 2022 年症例報告



【登録・集計対象について】

当院は、2011年10月より大分県がん診療連携協力病院の指定を受け、2011年症例から院内がん登録を実施しています。院内がん登録の情報は、2016年より開始された「がん登録等の推進に関する法律」に基づいた全国がん登録にも利用されています。

院内がん登録では、がんの診断内容、治療内容、予後に関する情報を登録しています。院内がん登録の適切な登録により、当院における受療状況、治療内容、予後情報などのがん診療を把握することができ、がん診療の質の向上に役立っています。

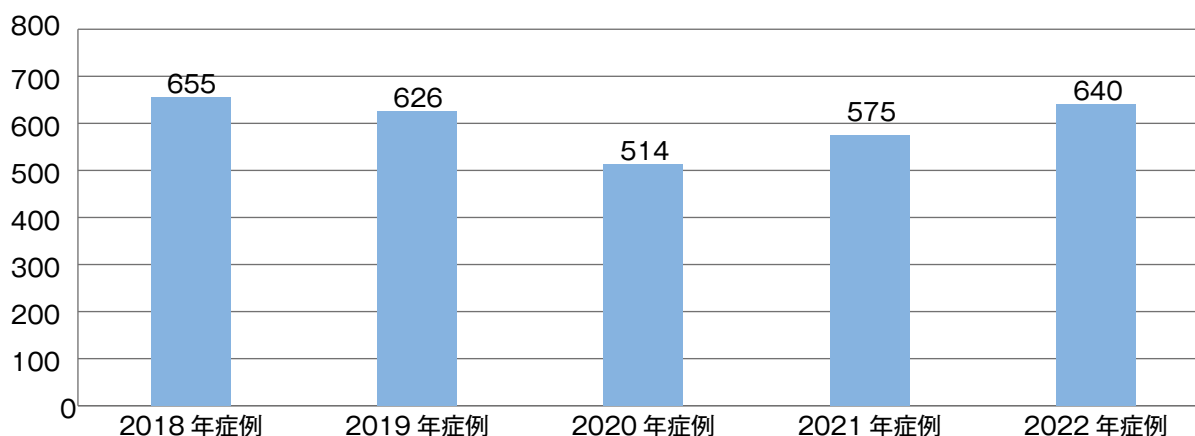
登録・集計対象は、当院でがんの診断・治療を受けた全ての患者さんを入院・外来問わず対象としています。そのため、積極的な治療を受けなかった患者さんやがんの診断のみで他院紹介となった患者さん、他院で治療後に受診した患者さんも登録対象に含まれています。

全疾患における患者数は、外来延べ患者数2020年59,507人、2021年58,256人、2022年62,379人、入院延べ患者数2020年72,806人、2021年58,287人、2022年66,917人で徐々に回復しています。

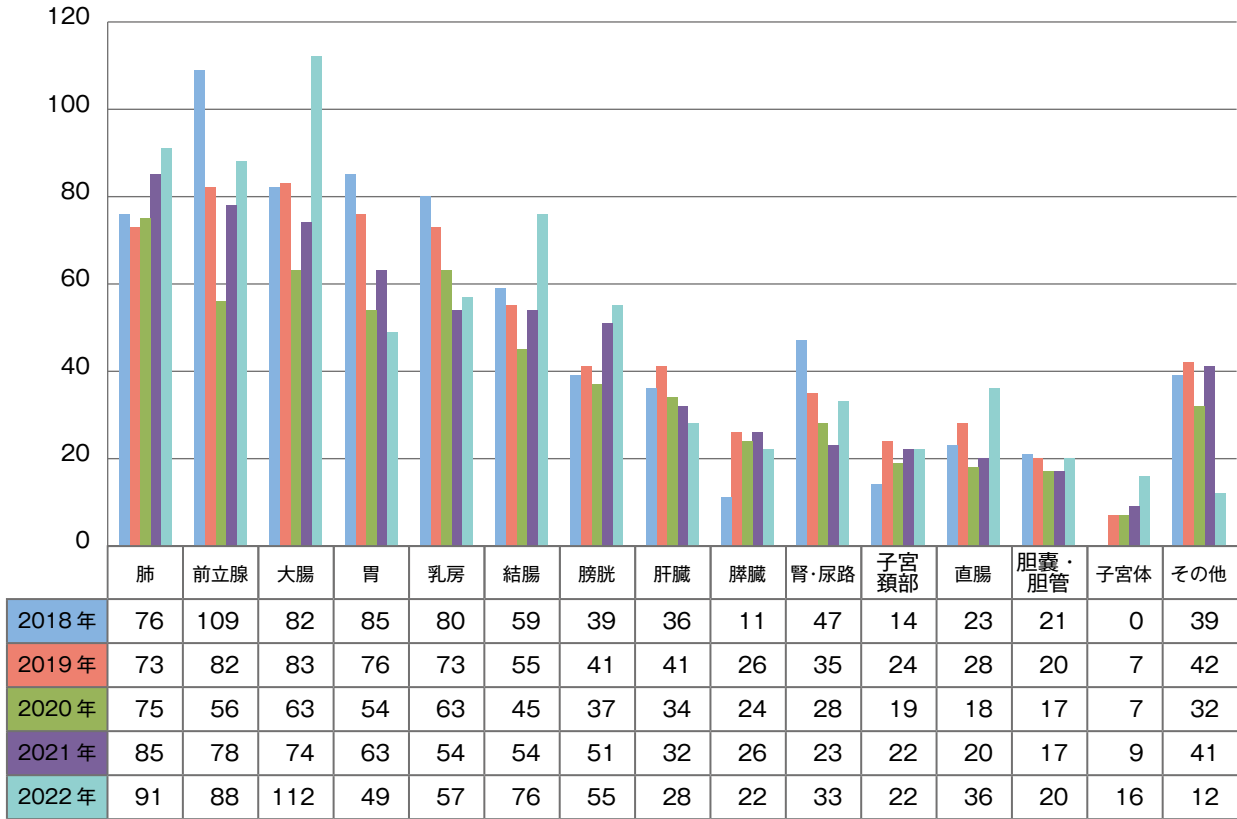
2020年、2021年は新型コロナウイルスの影響で、紹介や救急、入院患者の制限をしたこともあり登録件数はコロナ以前と比較すると登録件数が減少しましたが、2022年は制限等が緩和され手術、検査件数は2021年より増加し院内がん登録の件数はコロナ以前に戻りました。

男性では、前立腺が最も多く、次いで肺の順、女性は乳房が最も多く、次いで結腸の順でした。

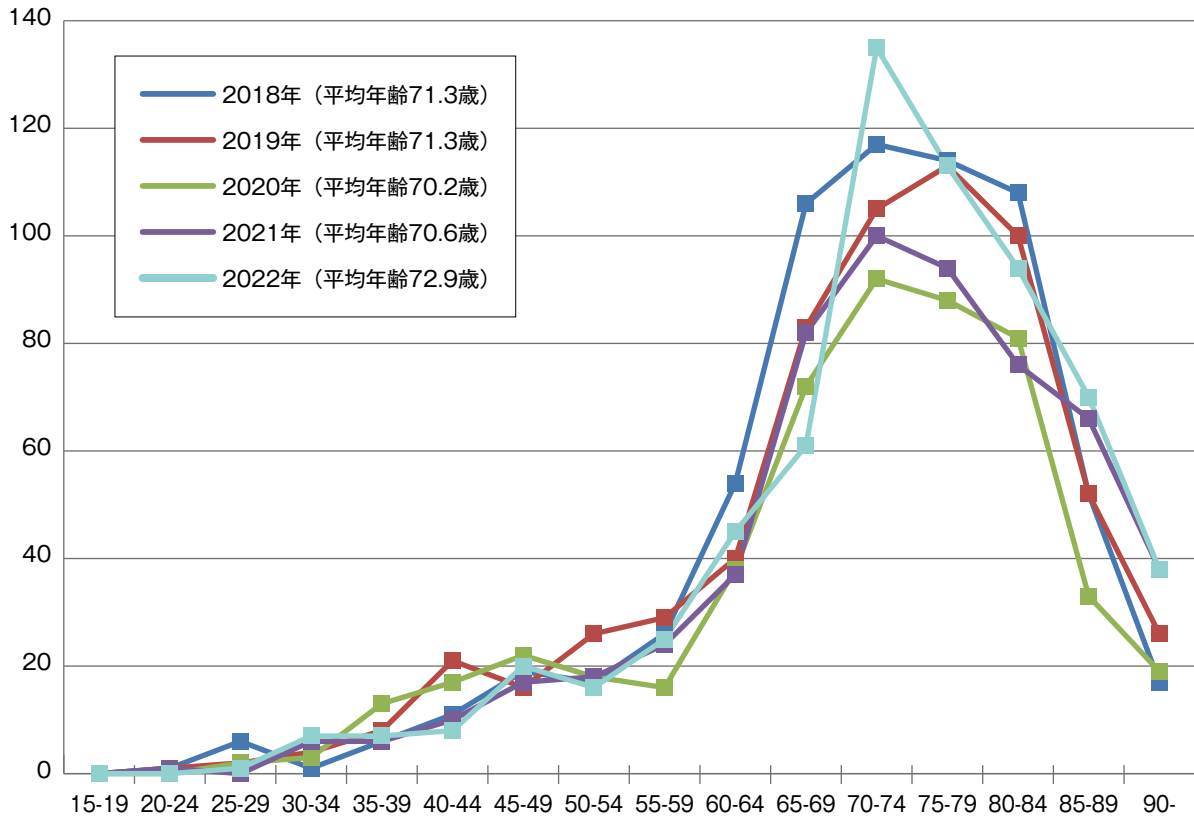
① 院内がん登録 登録件数



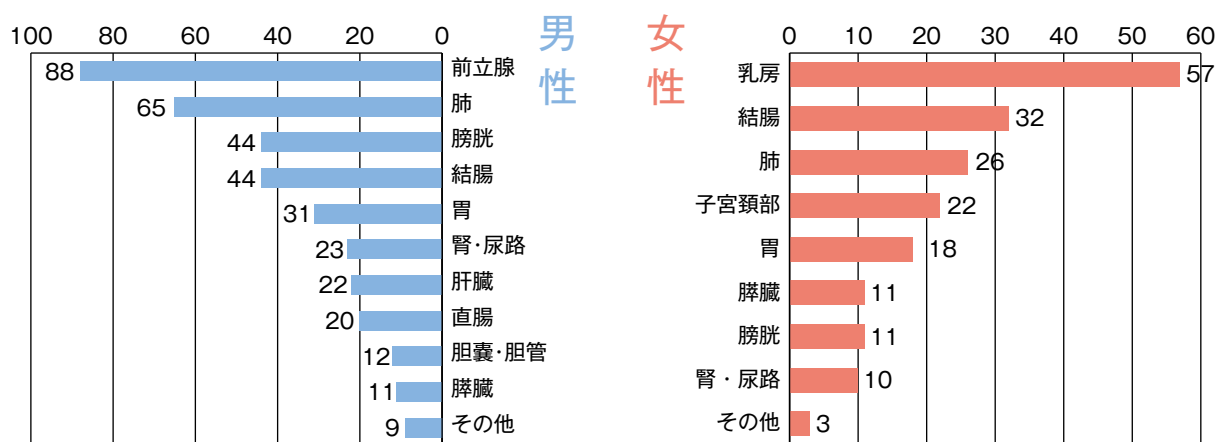
② 部位別件数



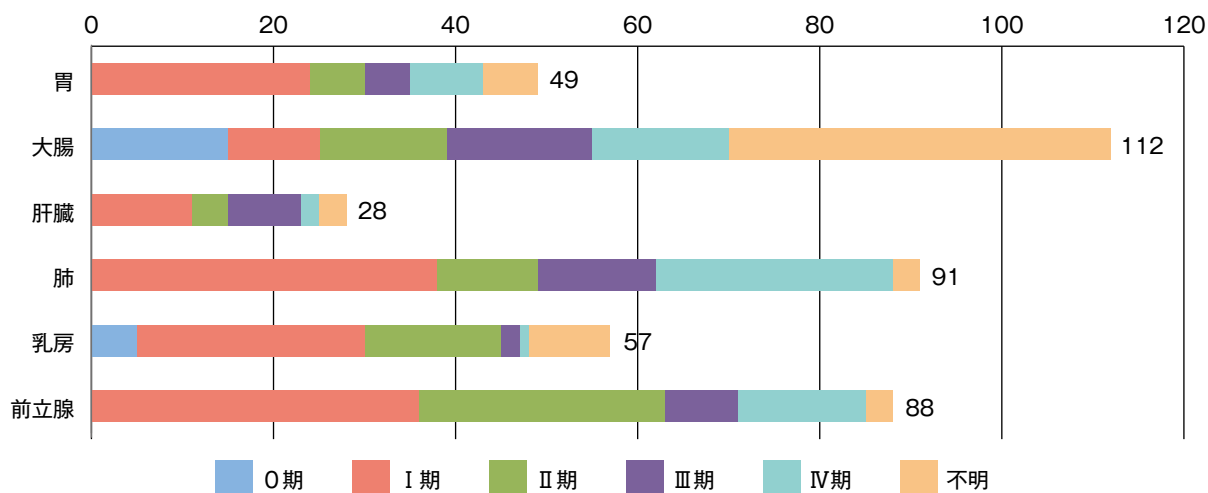
③ 年齢階層別件数



④ 性別件数



⑤ 主要5部位 + 前立腺 治療前ステージ別件数



3

部門別活動報告



① 放射線治療部門

放射線治療（外照射）

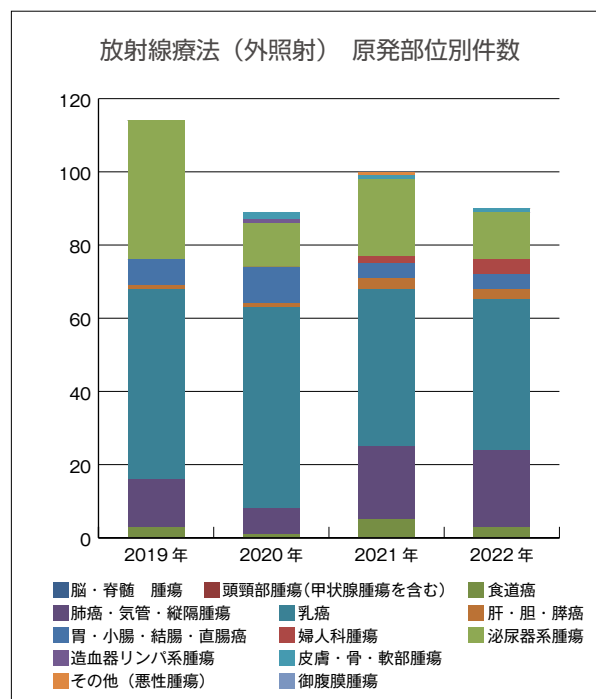
放射線治療はがん治療の三本柱（手術療法、化学（薬物）療法、放射線療法）のひとつです。放射線を直接がん細胞に照射することで、がん細胞を死滅させます。放射線治療の多くは手術療法・薬物療法などと併用されます。手術前に照射することでがん細胞を小さくし、切除範囲を縮小します。手術の前と後に、がん細胞の再発を防ぐために照射することもあります。抗がん剤にがん細胞が耐性を持ち始め薬の効果が落ちてきた時にも、放射線照射が追加されたりします。他にも、鎮痛剤の効きの悪い骨に転移したがん細胞の鎮痛や、神経を圧迫しているがん細胞を縮小させ、痛みや麻痺を軽減するのに用います。放射線治療は、手術と違い体にメスを入れませんので、がんの種類によっては、照射部位（臓器）の形態や機能の温存を目的として、放射線治療が単独で選択されます。

治療の流れとしては、主治医から依頼された患者さんの放射線治療への適応を判断し、十分な説明の上、治療計画用に撮影したCT画像をもとに放射線の照射範囲・回数・放射線の強さなどを決め、治療計画を立てます。治療は通常、平日毎日行います。治療期間中は放射線治療医も、副作用や体調の変化に応じて、適時診察を行わせていただいています。

体力・病態によっては、外来通院でも放射線治療は可能です。放射線治療を受けられている患者さんの半数ほどが外来通院での治療をされておられます。

内照射療法（RI内用療法）

多発するがん細胞の骨転移に対して、鎮痛・増大抑制を目的として内用療法を行います。治療効果のある放射性同位元素（ラジオアイソトープ：RI）を注射で体内に投与すると、血流と共に全身に広がり、骨病変に定着し放射線を放出します。鎮痛剤が効きにくい骨転移の痛みや、多発するため外照射療法を選択できない場合に大変効果があります。当院ではゾーフィゴ（ラジウム-223）による内照射療法を行っております。軽度の骨髄抑制が出現することもありますので、定期的な診察をさせていただきます。



治療装置

高エネルギー放射線治療装置（リニアック）

当院では全身・各部位の外照射治療を行っています。テーブルの上で最低15分程度動かずにいられる人であれば、外照射治療を受けることが可能です。高エネルギーのX線や電子線を病変部に当てる治療で、痛みもなく、体力の消耗も少なく、外来通院でもできる優しい治療です。

当院ではVarian社の放射線治療装置を有しています。治療台の上でCT画像を撮影できるので、腫瘍や正常組織を確認し、ミリ単位での正確な放射線治療が実施できます。



血管造影 CT 複合型装置（IVR-CT 装置）

近年、低侵襲治療（体を傷つけることの少ない血管内治療：IVR）が発達してきました。血管をたどってカテーテルを病変部まで挿入し、血液を遮断したり、抗がん剤を投与したりする治療を行います。カテーテルを挿入するため5mmほど皮膚を切開するだけの少ない侵襲で、治療を行うことができます。当院の装置は血管造影装置にCT装置を併せ持っており、病変に、薬が正確に投与されたかどうかを評価しながら治療を行います。また、体の外から小さな針で病気のサンプルを抽出する「生検」や感染巣から膿を排出する「ドレナージ」の際には、重要臓器を損傷しないように、CT画像と超音波画像を同期させリアルタイムに参照しながら、処置・治療を行うこともできます。



乳がん画像診断

乳房撮影装置

生活の欧米化に伴い、日本でも、乳がんの罹患率が上昇してきました。乳房撮影装置は乳房の撮影に特化したX線撮影装置です。マンモグラフィーとも呼ばれます。2021年5月に、乳房撮影の新しい技術であるトモシンセシスが可能な装置を導入しました。乳腺の重なりで見えなかった病変も、高精細な画像として描出されます。

当院では、撮影に女性放射線技師2名を配し、乳房撮影を行っています。



乳房用自動超音波画像診断装置（ABUS）

乳房専用の3D超音波診断装置です。検査は乳房の上に検出器を載せるだけの簡単な検査です。結果は動画として収集され、専門の医師ほか複数人で読影を行っています。マンモグラフィーではわからない、高密度乳腺の中に潜む病変を見つけ出すことができます。当院では、撮影に放射線技師と臨床検査技師の2名以上の女性技師を配し、ABUSを行っています。



精密超音波装置

ABUS以外にも、もちろん通常の超音波検査も行っております。放射線科では他科からの依頼で、乳房のみならず、頭頸部・腹部・動脈・静脈などの精密超音波検査を、放射線科医が実施しています。

※放射線治療や検査をご希望の場合は、かかりつけの医師に相談されるか、
当院の総合支援センター（地域医療連携部門）あるいは放射線科へご連絡ください。

② 化学療法センター

化学療法センターは、通院をしながらがん薬物治療を行う患者さんが対象です。

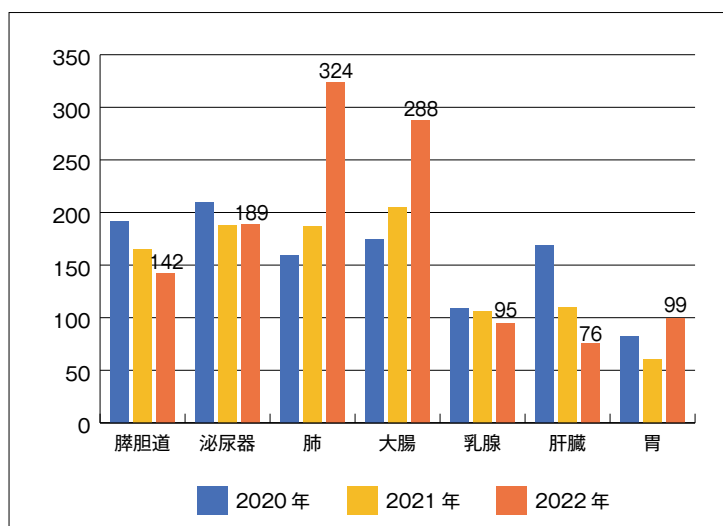
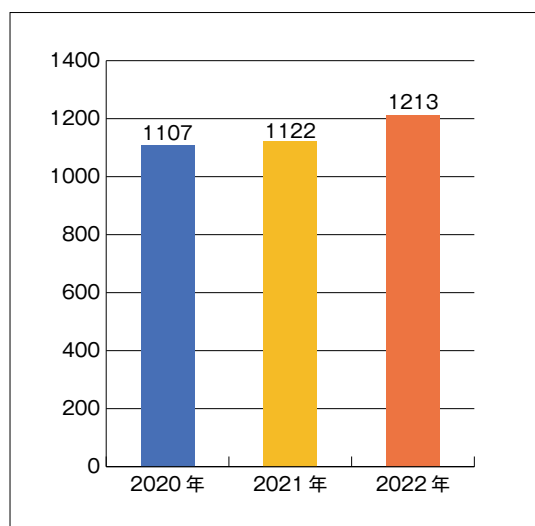
近年、がん治療の進歩は目覚ましく、殺細胞性抗がん薬、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬を組み合わせた多剤併用療法が様々ながん腫に対し適応となっています。

外来化学療法センターでは、それぞれの治療薬の特徴を理解し、安全、確実な投与管理と副作用の症状マネジメントができるよう、多職種と協働し治療を行っています。

1) スタッフ

化学療法センター長	矢田 一宏
がん薬物療法看護認定看護師	高橋 知子
化学療法センター専従看護師	宇都宮 亜友美
化学療法センター看護師	首藤 美穂、河野 菜津美
外来がん治療認定薬剤師	青木 孝喜

2) 外来化学療法件数 (2020年~2022年) 3) がん種別件数 (2020年1月~2022年12月)



4) 前立腺癌・乳癌に対するホルモン治療 (注射) 実施件数

薬剤一般名	2022年
リュープロレリン酢酸塩	319件
デガレリクス酢酸塩	233件
ゴセレリン酢酸塩	15件

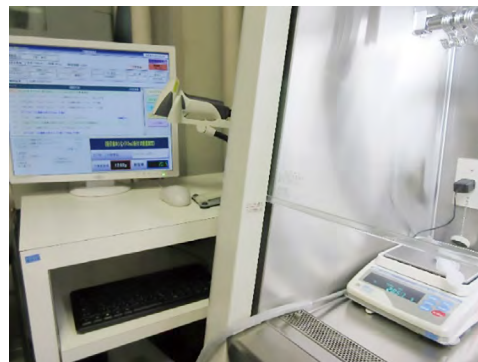
5) 転移性骨腫瘍に対する薬物治療実施件数

薬剤一般名	2022年
デノスマブ	122件
ゾレドロン酸	13件



③ がん化学療法薬剤部

抗がん剤はほぼ全例薬剤部で安全キャビネットを用いて無菌調製を行い、薬の種類によっては閉鎖式システムを使用しています。医師の処方したレジメンは薬剤師が用量、休薬期間、当日の検査値や体重等をダブルチェックしています。また抗がん剤調製支援システムを導入しており、調製手順の解析、薬剤量の換算も自動で行われています。



● 外来 化学療法調製件数

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2020	114	102	83	114	93	81	79	88	90	85	88	90	1,107
2021	116	93	99	84	79	99	100	108	81	83	90	90	1,122
2022	110	93	132	118	106	115	98	108	102	101	111	94	1,288

● 入院 化学療法調製件数

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2020	89	58	55	21	42	28	37	49	64	37	34	51	514
2021	4	24	33	22	51	63	60	28	34	45	53	38	455
2022	54	68	53	38	36	50	44	34	19	31	27	29	483

また、外来患者さんを対象に外来がん治療認定薬剤師が文書を用いた説明（薬の特徴、投薬スケジュール、副作用の種類と対応など）を実施し、必要に応じて処方提案を行っています。

2020年度より診療報酬改訂に伴い連携充実加算への取り組みを開始しています。FAX等による相談体制を整え、2021年度も10月に地域の保険薬局を対象とした勉強会を開催しました。審査されたのち登録されたレジメンを、ホームページ上で公開しており誰でも参照することが可能です。患者さんにはレジメンの実施状況や投与量、CTCAEを用いて評価した副作用の発現状況を文書とし、可能な限り交付しています。

● 2022年レジメン別のべ施行人数（上位）

レジメン名	臓器	人数
DOC+PSL	前立腺	12
XELOX	大腸癌	12
GEM+CDDP	腎	11
ペムプロリズマブ	肺	10
mFOLFOX6+ベバシズマブ	大腸癌	9
nal-IRI+5-FU/LV	膀胱	9
肝動注(CDDP+5-FU)	肝臓	9
ペムプロリズマブ	尿路上皮	8
AMR	肺	7
mFOLFOX6+パニツムマブ	大腸癌	7
ニボルマブ	腎	7

④ 緩和ケアチーム活動

1) 緩和ケアチームとは

緩和ケアチームは、病気に伴う心と体の痛みを和らげ、希望する生活が送れることを支援するチームです。患者さん・ご家族が抱える問題は様々であるため、チームは多職種で構成されています。

当センターでは、患者さんにご家族に対して主に主治医、看護師により緩和ケアは提供されますが、抱えている問題によって緩和ケアチームが協働し問題解決に努め、希望する生活が送れるよう支援する体制を整えています。チーム構成は以下の通りです。

【当センターの緩和ケアチーム構成】

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1. チームリーダー（呼吸器外科） | 8. リンクナース6名 |
| 2. リンクドクター2名（外科、呼吸器内科） | 9. リハビリスタッフ |
| 3. 副看護部長 | 10. 栄養士 |
| 4. 看護師長（緩和ケア認定看護師） | 11. 薬剤師 |
| 5. 副看護部長（がん性疼痛看護認定看護師） | 12. 医療社会事業専門職 |
| 6. チーム専従看護師（緩和ケア認定看護師） | 13. 事務職 |
| 7. がん放射線療法看護認定看護師 | |

2) チームの活動

(1) 緩和ケアチームによる病棟回診と症例検討会

患者さん・ご家族に最善の治療・ケアが提供できるよう、週1回評価ツールを用いて、患者さん・ご家族の抱える問題や治療・ケア・社会生活に対する希望などを病棟スタッフと情報共有しています。

その中で、身体と心の安楽及び希望の実現に向けた治療・ケアを検討し、提供できるよう取り組んでいます。



(2) 緩和ケアに関する知識・技術の普及

院内外の医療スタッフの緩和ケアの知識・技術の普及を目的としたセミナーの企画や、緩和ケアが安全・適正に提供されるようマニュアルの整備を行っています。

① セミナーや学習会の実施状況

年3回大分東部緩和ケアセミナーを実施しています。コロナウイルス感染症拡大防止のため、すべてのセミナーを延期しましたが、緩和ケアニュースレターを活用し、知識の普及を図っています。

② リンクナースの育成

各部署で役割モデルとなり最善のケアを患者さん・ご家族へ提供できるよう、委員会活動を通して、疼痛管理や倫理など緩和ケアに必要とされる知識や技術の向上を図っています。

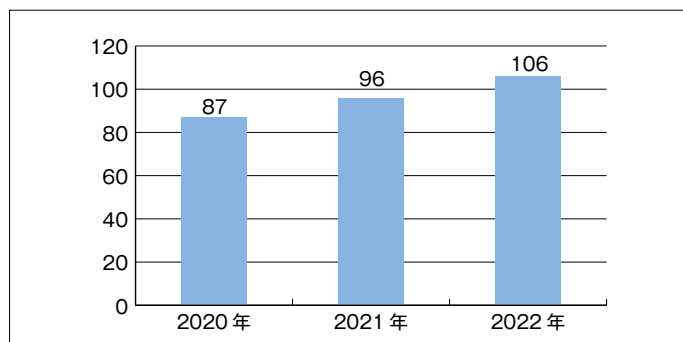
③ 意思決定支援

患者さん・ご家族の意思決定を支えるために、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を含めた意思決定支援について、病棟スタッフの支援や、患者さん・ご家族に向けた ACP の広報活動を行っています。

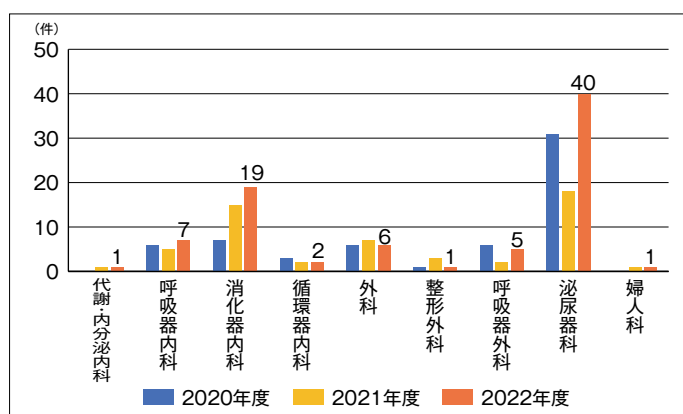


3) 緩和ケアチーム介入状況

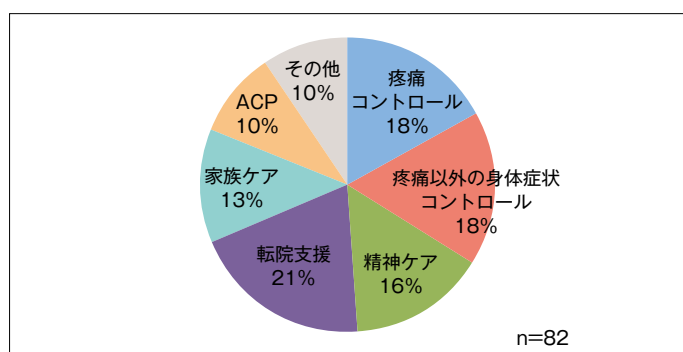
【2020～2022年 緩和ケアチーム介入患者数（再入院患者含む）】



【2020～2022年 診療科別新規介入患者数（総数 82件）】



【2022年 緩和ケアチーム依頼理由（重複あり）】

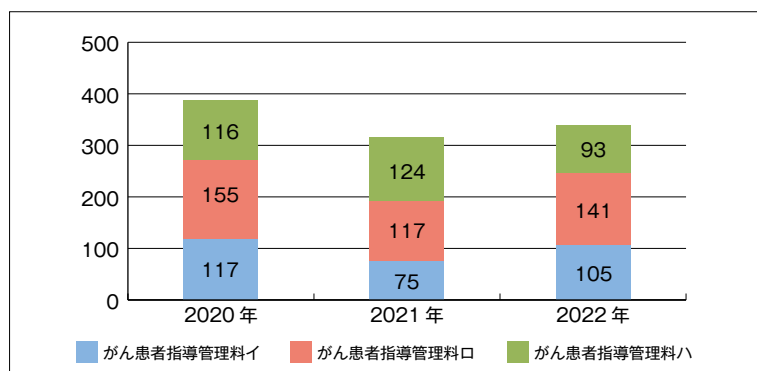


依頼理由	件数
疼痛コントロール	45
疼痛以外の身体症状コントロール	46
精神ケア	41
転院支援	52
家族ケア	33
ACP	10
その他	26

4) がん患者指導管理料

2014年度よりがん患者さんとそのご家族に対する治療・ケアの充実を目的に、がんと診断され継続的な支援を必要とする患者・家族に対して、専門的な知識・技術をもった医療スタッフ^{※1}が迅速に介入し、日常生活を維持する中で治療が継続できるよう支援する体制を整えています。

【がん患者指導管理料加算算定件数推移】



※1 医療スタッフ：
 がん化学療法看護認定看護師
 がん放射線療法看護認定看護師
 がん性疼痛看護認定看護師
 緩和ケア認定看護師
 外来がん治療認定薬剤師

⑤ がん患者リハビリテーション

当院での5大がん（胃・肺・肝臓・膵臓・乳がん）を中心とした治療に積極的に取り組んでおります。リハビリテーションにおいては周術期リハビリテーション、化学療法、放射線治療中のリハビリテーション、緩和リハビリテーション等、患者さんの治療・要望に合わせたリハビリテーションを展開しています。

周術期リハビリテーション

理学療法（PT）

術前より呼吸訓練や筋力訓練を実施し、術後は早期離床を図ることにより術後合併症の予防に取り組んでいます。

作業療法（OT）

患者さんの状態に合わせたADL訓練を取り入れ在宅復帰に不安がないよう支援していきます。

言語療法（ST）

摂食嚥下訓練が必要な患者さんに対して、多職種と連携しながら支援していきます。

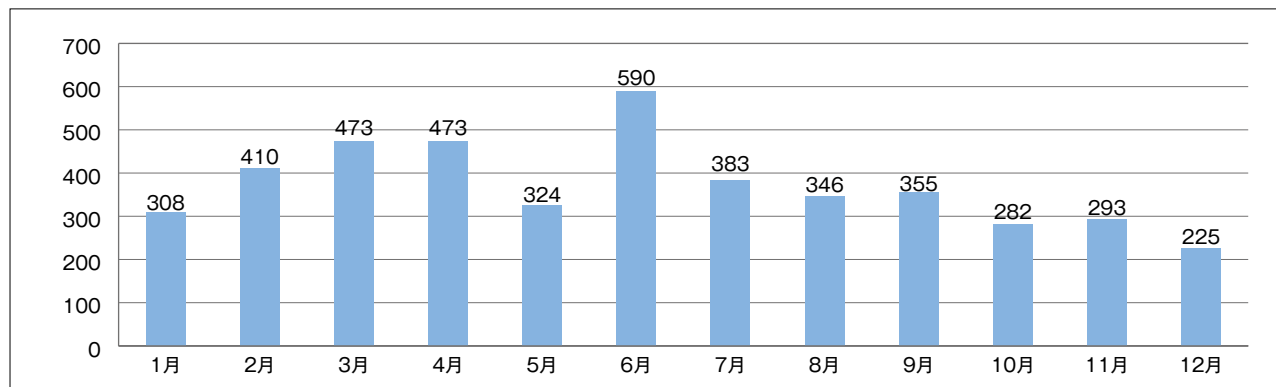
化学療法・放射線治療中のリハビリテーション

抗がん剤や放射線治療中は倦怠感の出現や体力低下等を来します。適切で適度な運動を行うことでこれらの副作用の軽減が期待できます。当院では治療開始早期からリハビリテーションを取り入れADL、QOL維持に努めています。

緩和リハビリテーション

当院の緩和ケアチームと連携し、痛みや呼吸困難等に対して緩和的リハビリテーションを提供しています。

【がん患者リハビリテーション料 PT・OT・ST 延件数】（2022年）



がん患者リハビリテーション研修受講者

職種	氏名
医師	栴島 章
医師	住野 泰弘
医師	山下 勉
医師	大谷 哲史
看護師	加来 美里
看護師	佐藤 千秋
看護師	神志那 邦子

職種	氏名
看護師	菅野 萌
看護師	加藤 千尋
理学療法士	大浪 徳明
理学療法士	河野 泰之
理学療法士	下川床 眞
理学療法士	米倉 大祐
理学療法士	甲下 修士

職種	氏名
理学療法士	嶋山 裕文
理学療法士	中尾 悠人
作業療法士	米澤 武人
作業療法士	貞方 真也
作業療法士	有岡 光太郎
作業療法士	福田 妹果
言語聴覚士	山形 遙志

⑥ がん相談支援センター、がんサロン、がん川柳

がん相談支援センター

がん相談支援センターでは、がん専門相談としての研修を受けたスタッフ（看護師、医療ソーシャルワーカー）が、信頼出来る情報に基づいてがん治療の療養生活全般の相談をお受けしております。また、がんサロンの開催やがん川柳の募集、冊子の発行等の活動を通じて、がん患者さんのケアやがん啓発を行っています。

相談業務

早期発見などに関する一般的な情報の提供、セカンドオピニオンについて、がん患者さんの療養上の相談、がん患者支援団体の情報の提供。

その他業務

がんサロンの運営、がん川柳等の啓発活動、大分県がん相談支援センター情報交換会に参加。

がんサロン

がんサロンは、がん患者さんやそのご家族など、同じ立場の人達が集い、気軽に語らう為の交流の場として2ヶ月に1回程度開催していましたが、2020年以降は感染症対策のため開催しておりません。医療者とのコミュニケーションや運動療法など、多職種によるミニセミナーや患者・家族との意見交換などを行う場にもなっていますので、感染状況を見つつ、再開できればと考えています。

がん川柳

がん川柳は、がん患者さんやその方々を支えている家族・知人・支援者が、がんにもつわるエピソードや日頃の思いを川柳にのせて、感情表出を行い心のケアを行うことや、がん川柳の思いを地域・社会へ発信し、がん患者さん等の思いを共有することを目的として、多くの方々に公募し、その中から優秀作品を選定して表彰しています。

- 令和4年は第7回として募集し、優秀作品賞となった方々に表彰状と記念品を贈呈しました。また、応募してきた川柳を載せた冊子を発行しました。
- がんチャリティーイベント（リレー・フォー・ライフ・ジャパン大分）に参加し、当院テント企画として、がん川柳を展示、冊子を約120部無料配布しました。

4

当院で治療を行っているがんの種類



○：対応可 ×：対応不可

		診 療	セカンド オピニオン
頭部・頸部	脳腫瘍	×	×
	脊髄腫瘍	×	×
	目のがん	×	×
	口腔がん・咽頭がん・鼻のがん	×	×
	喉頭がん	×	×
	甲状腺がん	×	×
消化器がん	食道がん	○	○
	胃がん	○	○
	十二指腸がん・小腸がん	○	○
	大腸がん	○	○
	GIST	○	○
肝臓 / 胆道 / 膵臓	肝がん	○	○
	胆管がん・胆のうがん	○	○
	膵がん	○	○
胸部・乳房	肺がん	○	○
	乳がん	○	○
	縦隔腫瘍（胸腺がんなど）	○	○
	中皮腫	○	○
泌尿器	腎がん	○	○
	腎盂がん・尿管がんなど	○	○
	膀胱がん	○	○
	副腎腫瘍	○	○
男性特有のがん	前立腺がん	○	○
	精巣がん	○	○
	その他の男性生殖がん（陰茎がんなど）	○	○
女性特有のがん	子宮頸がん・子宮体がん	○	○
	卵巣がん	○	○
	その他の女性のがん （陰がん・外陰がんなど）	○	○
皮膚 / 骨と軟部腫瘍 / 血液・リンパ	皮膚のがん	×	×
	骨と軟部腫瘍（筋肉や脂肪など）のがん	×	×
	血液・リンパのがん	×	×
その他	後腹膜・腹膜腫瘍	○	○
	性腺外胚細胞腫瘍	×	×
	原発不明がん	×	×
小児	小児脳腫瘍	×	×
	小児の目のがん	×	×
	小児の骨と軟部組織のがん	×	×
	他の小児の固形腫瘍（神経芽腫など）	×	×
	小児の血液・リンパのがん	×	×

※セカンドオピニオンの申し込み窓口は総合支援センター（097-593-1112（直通））になります。
詳しくはホームページをご覧ください。

5

がん関連資格取得者（2022年12月現在）



【診療部門】

▼ 外科

職名	氏名	取得資格・認定
統括診療部長 (消化管)	椛島 章	日本外科学会外科指導医・専門医 日本消化器外科学会消化器外科指導医・専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本胃癌学会代議員
消化器外科部長 (肝胆膵)	矢田 一宏	日本外科学会外科指導医・専門医・認定医 日本消化器外科学会消化器外科指導医・専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医 日本肝胆膵外科学会評議員 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本内視鏡外科学会評議員 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医・専門医 日本消化器病学会消化器病指導医・専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本膵臓学会指導医
医長	橋本 直隆	日本消化器外科学会消化器外科指導医・専門医 日本外科学会外科専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
医師	一万田 充洋	日本外科学会外科専門医 日本消化器外科学会消化器外科専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
医師	笠木 勇太	日本外科学会外科専門医

▼ 呼吸器内科

職名	氏名	取得資格・認定
部長	大谷 哲史	日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会認定内科医 日本呼吸器学会呼吸器指導医・専門医 日本アレルギー学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医・専門医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター (ICD) 認定医
医長	山本 堯	日本内科学会認定内科医 日本結核非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症認定医 ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター (ICD) 認定医

▼ 消化器内科

職名	氏名	取得資格・認定
名誉院長	室 豊吉	日本内科学会認定指導医 日本内科学会認定内科医 日本肝臓学会認定肝臓専門医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医・専門医
部長	山下 勉	日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本肝臓学会認定肝臓専門医・暫定指導医
部長	大塚 雄一郎	日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会認定内科医 日本肝臓学会認定肝臓専門医・暫定指導医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医・専門医 日本ヘリコバクター学会 H.pylori（ピロリ菌）感染症認定医 日本消化管学会胃腸科専門医 日本胆道学会認定指導医
医師	水内 梨絵	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本肝臓学会認定肝臓専門医 日本内科学会認定内科医

▼ 呼吸器外科

職名	氏名	取得資格・認定
部長	高祖 英典	呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医 日本外科学会外科専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

▼ 泌尿器科

職名	氏名	取得資格・認定
院長	奈須 伸吉	日本泌尿器科学会泌尿器科指導医・専門医 日本泌尿器科学会日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医 日本透析医学会認定医 日本泌尿器内視鏡学会評議員 日本泌尿器科学会西日本支部評議員
部長	住野 泰弘	日本泌尿器科学会泌尿器科指導医・専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本排尿機能学会認定医 日本泌尿器科学会日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医 日本泌尿器科学会西日本支部評議員 日本排尿機能学会代議員
医長	山中 直行	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医
医師	河野 香織	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医

▼ 婦人科

職名	氏名	取得資格・認定
部長	岡田 さおり	日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医 日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ読影認定医 日本産婦人科乳腺医学会乳房疾患認定医 日本性感染症学会認定医
医師	梶原 由衣	日本産科婦人科学会産婦人科専門医

▼ 放射線科

職名	氏名	取得資格・認定
副院長 (産業医)	中村 雄介	日本インターベンショナルラジオロジー学会 (IVR) 専門医 日本医学放射線学会放射線科専門医
医長	高橋 浩平	日本医学放射線学会放射線診断専門医

▼ 病理診断科

職名	氏名	取得資格・認定
研究検査部長	森内 昭	日本臨床細胞学会細胞診専門医 日本臨床検査医学会臨床検査専門医 日本臨床検査医学会臨床検査管理医 日本病理学会病理専門医研修指導医 日本病理学会認定病理医
科長	荒金 茂樹	日本臨床細胞学会細胞診専門医 日本病理学会病理専門医

【コメディカル】

▼ 薬剤部

氏名	取得資格・認定
青木 孝喜	外来がん治療認定薬剤師

▼ 看護部

氏名	取得資格・認定
高橋 知子	がん化学療法看護認定看護師
廣田 紘子	がん性疼痛看護認定看護師
佐藤 晶子	がん放射線療法看護認定看護師
岐部 久恵	皮膚排泄ケア認定看護師
古田 聡美	緩和ケア認定看護師

▼ 医療情報管理室

氏名	取得資格・認定
中川 博之	院内がん登録実務中級認定者

6

がん関連発表 (2022年1月~2022年12月)



▼ 学会

演者名	演題名	発表学会	発表年月日	場所
山中 直行、河野 香織、 住野 泰弘、奈須 伸吉	陰嚢水腫穿刺後に精巣上体膿瘍をきたした一例	日本泌尿器科学会 第 80 回大分地方会	2022/6/18	大分市
河野 香織、山中 直行、 住野 泰弘、奈須 伸吉	Enfortumab Vedotin (EV) 療法導入後に広範な消化管病変をきたした進行性膀胱癌の 1 例	日本泌尿器科学会 第 80 回大分地方会	2022/6/18	大分市
橋本 直隆、矢田 一宏、 笠木 勇太、一万田充洋、 高祖 英典、梶島 章	腹腔鏡下肝切除を施行した肝原発 perivascular epithelioid cell tumor の 1 切除例	第 35 回 日本内視鏡外科学会総会	2022/12/ 8 ~ 10	名古屋市
一万田充洋、笠木 勇太、 橋本 直隆、高祖 英典、 矢田 一宏、梶島 章	粘膜下腫瘍として発見された肛門扁平上皮癌の一例	第 35 回 日本内視鏡外科学会総会	2022/12/ 8 ~ 10	名古屋市

▼ 講演・研究会

演者名	演題名	発表学会	発表年月日	場所
梶島 章	症例報告 1	第 94 回 日本胃癌学会総会	2022/3/2	横浜市
橋本 直隆、矢田 一宏、 渋谷 祥平、笠木 勇太、 一万田充洋、荒金 茂樹、 森内 昭、梶島 章	肝細胞癌との鑑別が困難であった肝原発 perivascular epithelioid cell tumor の 1 切除例	第 6 回 大分肝胆膵研究会	2022/3/15	大分市
藤川 乱麻、笠木 勇太、 橋本 直隆、一万田充洋、 高祖 英典、矢田 一宏、 梶島 章	虫垂腫瘍との鑑別に難渋した虫垂子宮内膜症の一例	第 246 回 大分県外科医会例会	2022/6/4	大分市
一万田充洋、藤川 乱麻、 笠木 勇太、橋本 直隆、 高祖 英典、矢田 一宏、 荒金 茂樹、梶島 章	粘膜下腫瘍様形態を呈した肛門扁平上皮癌の一例	第 33 回 大分内視鏡外科研究会	2022/6/18	大分市
山下 勉	当院の新規肝細胞癌症例について (腫瘍マーカーの考察も含めて)	R 4 年度 国立病院機構 共同臨床研究班会議	2022/12/23	大分市

▼ 論文

著者	論文名	誌名	巻(号)頁	発行日
Masahito Nakano, Hiroshi Yatsuhashi, Shigemune Bekki, Yuko Takami, Yasuhito Tanaka, Yoko Yoshimaru, Koichi Honda, Yasuji Komorizono, Masaru Harada, Michihiko Shibata, Shotaro Sakisaka, Satoshi Shakado, Kenji Nagata, Tomoharu Yoshizumi, Shinji Itoh, Tetsuro Sohda, Satoshi Oeda, Kazuhiko Nakao, Ryu Sasaki, Tsutomu Yamashita, Akio Ido, Seiichi Mawatari, Makoto Nakamuta, Yoshifusa Aratake, Shuichi Matsumoto, Tatsuji Maeshiro, Takashi Goto, Takuji Torimura	Trends in hepatocellular carcinoma incident cases in Japan between 1996 and 2019	Scientific Reports	12(1):1,517	2022/1
梅田 健二、矢田 一宏、高祖 英典、椛島 章	複数回の開腹歴を有する患者の横隔膜下転移性肝腫瘍に対して胸腔鏡下肝部分切除術を施行した1例	手術	76(1):117-122	2022/4
Takashi Niizeki, Takayuki Tokunaga, Yuko Takami, Yoshiyuki Wada, Masaru Harada, Michihiko Shibata, Kazuhiko Nakao, Ryu Sasaki, Fumihito Hirai, Satoshi Shakado, Tomoharu Yoshizumi, Shinji Itoh, Hiroshi Yatsuhashi, Shigemune Bekki, Akio Ido, Seiichi Mawatari, Koichi Honda, Rie Sugimoto, Takeshi Senju, Hirokazu Takahashi, Takuya Kuwashiro, Tatsuji Maeshiro, Makoto Nakamuta, Yoshifusa Aratake, Tsutomu Yamashita, Yuichiro Otsuka, Shuichi Matsumoto, Tetsuro Sohda, Shigeo Shimose, Kenta Murotani, Yasuhito Tanaka	Comparison of Efficacy and Safety of Atezolizumab Plus Bevacizumab and Lenvatinib as First-Line Therapy for Unresectable Hepatocellular Carcinoma: A Propensity Score Matching Analysis	Target Oncol	17(6):643-653	2022/11

独立行政法人 国立病院機構
大分医療センター

がん年報 2022年

発行日：2024年3月

大分医療センター

〒870-0263 大分県大分市横田2丁目11番45号
(代表番号)TEL 097-593-1111 FAX 097-593-3106
(総合支援センター)TEL 097-593-1112 FAX 097-528-9651
ホームページ <https://oita.hosp.go.jp/>

Cancer Annual Report 2022 Oita Medical Center

独立行政法人 国立病院機構 大分医療センター

〒870-0263 大分県大分市横田2丁目11番45号
(代表番号) TEL 097-593-1111 FAX 097-593-3106
(総合支援センター) TEL 097-593-1112 FAX 097-528-9651
ホームページ <https://oita.hosp.go.jp/>